平成22年度前期
授業改善アンケート 質問項目

		no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ~ 十分確認した
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ~ 取り組んだ
		3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ~ 良好
		4	授業外で自主的な学習をしましたか	しなかった ~ 十分した
授 業	内 容	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ~ シラバスに沿っていた
		6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ~ 十分理解できた
	教 え 方 等	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ~ 明快
		8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ~ 聞き取れた
		9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
		10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ~ 良好	
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ~ 揃っている	

1.概評

12の質問設問項目の内、全学平均と同じものが4項目（No.4・6・9・12）で、その他の8項目は全学平均を上回った数値となった。また前年度前期に比して、ポイントの上昇が認められたものは9項目で、概ね良好な数値と認められる

〔学生〕

いずれの項目も、前年度前期に比してポイントの上昇が認められ、特にNo.3の出席状況の評価は高い。一方で、自主的な学習には、改善の兆しはあるが、例年同様、全項目最も低い数値を示しており、自習に対する意識を学生・教員共に再確認し、更に改善に取り組む。

〔授業〔内容〕〕

授業内容とシラバスの整合性、また学生の理解度に応じた授業運営がなされている数値と認められる。No.1の結果とも連動するものと考えられる。

〔授業〔教え方等〕〕

No.9を除き、いずれの項目も4点台となり、教授方法については、学生の満足が得られた結果と推測される。但し、板書の使い方等については、前年度前期に比して0.1ポイント、後期に比しては0.3ポイントの下降となった。各教員に対して、教授方法の更なる改善がなされるよう、周知していきたい。

〔環境・設備等〕

学習環境、参考資料共に、いずれも3.0以下の科目は一つもなく、平均値でも前年度前期に比して、0.1ポイント上昇しており、改善が認められた。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	7	35	57	前年度前期に比して、0.1ポイント上昇した。必修科目や下級学年向けの選択必修科目の一部に数値が低いものが認められる。
2	4.0	0	0	0	8	35	56	前年度前期に比して、0.1ポイント上昇した。数値の高低については、No.1と通じた傾向が認められる。実習系の科目に対する意欲は高い。
3	4.4	0	0	0	0	6	93	設問中、最も高い数値を示しており、前年度前期に比して0.1ポイント上昇した。概ね良好と言える。
4	3.5	0	0	9	33	42	15	前年度前期に比して、0.1ポイント上昇したが、例年同様最も低い数値となった。各科目での対応を検討する。
5	4.0	0	0	0	3	37	59	前年度前期に比して、0.2ポイント上昇した。3.5以下の科目も少なく、概ね良好である。
6	3.9	0	0	0	15	32	52	前年度前期と同様の値で、3以下の科目もなくなり、概ね良好と認められる。
7	4.1	0	0	1	12	14	72	前年度前期に比して、0.1ポイント上昇し、4以上の科目も増えたが、一方で3.5以下の科目も若干増え、必修科目や下級学年用の選択必修科目に低い数値が認められた。
8	4.2	0	0	0	5	22	72	前年度前期に比して、0.1ポイント上昇し、概ね良好と認められる。
9	3.8	0	1	0	11	27	57	前年度前期に比して、0.1ポイント下降した。2.5以下の科目については、状況を把握した上で、改善策を検討したい。
10	4.1	0	0	0	6	18	74	前年度前期と同様の数値で、概ね良好と言える。
11	4.2	0	0	0	2	23	74	前年度前期に比して、0.1ポイント上昇し、概ね良好と認められる。3.5前後の科目は、約70～120名までのものが多かった。教室配置は今後も検討したい。
12	3.8	0	0	0	9	67	23	前年度前期に比して、0.1ポイント上昇した。数値の低いものの中に非常勤講師担当科目が散見されることから、推薦図書の周知を徹底したい。

3. 今後の方針

- 毎回の課題となっている自主的な学習に対しては、これまでの取り組みで僅かながら改善されつつあるが、更なる取り組みとして、高い数値の科目で実施している方法を共有するなど、各科目で具体策を検討し、学生の意欲を高めていきたい。
- シラバスの確認など改善が認められるものの、下級学年対象科目において、十分でないところも認められるため、ガイダンス期間やHRを利用して、自らの学びに対する意識を促していきたい。

1.概評

学科平均が全体平均より上回っているものが 12 項目中 3 項目 (No.9、No.10、No.12)、下回っているものが 2 項目 (No.1、No.3)、それ以外の 7 項目は同じ数値であった。概ね良好な結果となっているが、全ての項目において改善が図れるよう引き続き学科で検討を続けていきたい。

[学生]

授業外の自主的な学習 (No.4) が 3.5 ポイントと全項目中で最も低い評価となっている。学生に対しては教室の内外で積極的かつ自主的に取り組み事ができるよう奨励し、教員に対してもさらなる改善を呼び掛けていきたい。

[授業内容]

両項目とも全体平均と同じ数値である。授業内容の理解 (No.6) については、8 割以上の学生が「授業をよく理解できた」と評価している。

[授業(教え方等)]

全項目とも比較的高い評価となっている。板書等の利用 (No.9) と資料・教材 (No.10) については全体平均を上回る結果となっている。授業公開などの FD 活動を通して、より効果的な授業運営を検討していきたい。

[環境・設備等]

図書館 (No.12) については全体平均よりも上回っている。これは 1・2 年の必修授業で使用する副教材を図書館に置いていただいているためだと考えられるが、数値的にはまだ改善の余地があるので、引き続き方策を検討していきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価 (全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	2	8	39	61	37	学科平均が(全体平均よりは 0.1 ポイント下回っているが) 前年度学科平均より 0.1 ポイント上昇している。必修科目の評価が依然低い傾向にある。
2	3.9	0	0	0	16	66	65	学科平均が前年度より 0.1 ポイント上昇している。少人数クラス、スピーキングを中心とするスキル系科目の評価が高くなっている。
3	4.2	0	0	0	0	25	122	学科平均が前年度より 0.1 ポイント上昇している。評価の低い科目には、週 2 回のスキル系科目と比較的履修者の多い講義系科目が混在している。
4	3.5	0	1	5	57	64	20	今年度の全体平均とも、前年度の学科平均とも同じ数値であった。評価が 3.0 未満の科目 (6) のうち 5 科目が講義系クラス、うち 4 科目の履修者が 50 名以上となっている。
5	3.9	0	0	1	12	65	69	今年度の全体平均とは同じ数値であるが、前年度の学科平均と比較すると 0.3 ポイント上昇している。設問の文言変更による変化とも考えられるので、次年度の結果が出たところで比較してみたい。
6	3.9	0	0	7	17	47	76	今年度の全体平均とは同じ数値であるが、前年度の学科平均より 0.1 ポイント上昇している。3.5 以上の評価が全体の 83.6% を占めており、ほとんどの学生が授業内容を理解できていると評価している。
7	4.0	0	0	5	22	40	80	今年度の全体平均とは同じ数値であるが、前年度の学科平均より 0.1 ポイント上昇しており、高い評価となっている。
8	4.1	0	0	6	11	49	81	今年度の全体平均とは同じ数値であるが、前年度の学科平均より 0.1 ポイント上昇しており、高い評価となっている。
9	3.9	0	0	1	24	52	70	今年度の全体平均、前年度の学科平均より 0.1 ポイント上昇している。パワーポイントなどの視聴覚教材を有効活用した授業を今後も推進していきたい。
10	4.0	0	0	0	17	54	76	今年度の全体平均、前年度の学科平均より 0.1 ポイント上昇している。今後も授業公開などの FD 活動を通して、有効な資料作成方法などの知識を教員間で共有していきたい。
11	4.1	0	0	0	6	41	100	今年度の全体平均とは同じ数値であるが、前年度の学科平均より 0.1 ポイント上昇している。3.5 未満の 6 科目については 3 号館普通教室を使用しており、そのうち 3 科目の履修者が約 80 名、2 科目が約 50 名である。
12	3.7	0	0	0	37	82	28	今年度の全体平均、前年度の学科平均より 0.1 ポイント上昇している。1・2 年必修科目の副教材を図書館 3 階に設置していただいているのでポイントが上昇していると考えられる。

3. 今後の方針

- 学科平均を前年度のものと比較すると、12 項目中 11 項目でポイントが上昇し、残り 1 項目は同じ数値であった。今後も各項目で改善を図っていききたい。
- シラバスの確認については、選択科目はもちろんのこと必修科目でも必ず確認する習慣をつけるよう学生に指導していききたい。
- 設問 5(「授業はシラバスに沿って行われたか」)については、学科平均が昨年度より 0.3 ポイント上昇している。これは設問の文言が以前の「授業内容はシラバスで予想した内容だったか」から変更になったことも一因と考えられる。来年度の結果を見て、比較検討を行いたい。
- 図書館の利用(No.12)については、1・2 年対象の必修スキル科目の課題図書を、図書館 3 階に設置していただいていることが、ポイントの上昇につながったと考えられる。しかしながら、まだ改善の余地があるので、現在実施している(1 年生対象と 3 年生対象の)図書館ガイダンス等の機会を活用して、学生に図書館利用を呼び掛けていききたい。
- 学生の教室内外での積極的、自主的な学習習慣の確立については、全学、あるいは学科の FD 活動を活用して一層の改善を図っていききたい。

1.概評

前期開設科目のうち、10 名以上履修者のいる 85 科目と 10 名以下の 5 科目についてアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が 2、全体平均と同じである項目が 4、やや下回る項目が 6 である。前年度後期と比較すると全体平均を下回る項目が増えた。また、平均が 2-2.5 の間にはいる科目があり、これはいままでになかったことである。何が原因か確認したい。

[学生]

出席状況は良好(No.3)であるが、自主的な学習(No.4)で問題があり、自主学習が弱い。

[授業[内容]]

授業内容は、概ね問題はないが、2-3 の科目で評価が低かった。

[授業[教え方等]]

概ね問題がないが、2-3 の科目で評価が低かった。

[環境・設備等]

全体平均と同じであり、以前よりもやや改善されているようである。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	1	9	49	30	全体平均より 1 点高い。ただし、前年度から引き続き必修科目や博物館関連科目でシラバスの確認が弱い。担当教員に努力してもらおう。
2	3.8	0	0	2	10	40	37	全体平均・前年度後期よりも 1 点低い。必修授業への取り組みが弱い傾向にある。
3	4.3	0	0	0	1	2	86	全体平均・前年度後期と同じである。出席状況は良好である。
4	3.4	0	1	4	45	36	3	全体平均・前年度後期よりも 1 点低い。必修・実習系の授業で自主学習が弱い。
5	3.8	0	0	2	11	44	32	全体平均より 1 点低く、前年度後期と同じである。基本的にはシラバスにそった授業が実施されている。
6	3.8	0	1	2	9	40	37	全体平均・前年度後期よりも 1 点低い。2-3 の科目で低い評価があり、担当教員に改善をお願いしたい。
7	3.9	0	1	2	5	35	46	全体平均・前年度後期より 1 点低い。説明は概ね明快であるが、2-3 の科目で評価が低い。
8	4.0	0	0	1	7	24	57	全体平均・前年度後期よりも 1 点低い。しかし、概ね問題はない。
9	3.8	0	1	2	7	48	31	全体平均と同じであり、前年度後期より 1 点低い。ここでも 2-3 の科目で評価が低い。
10	4.0	0	0	2	5	36	46	全体平均より 1 点上、昨年度と同じである。概ね良好である。
11	4.1	0	0	1	5	32	51	全体平均と同じであり、前年度よりも 1 点上である。概ね良好である。
12	3.6	0	0	1	32	42	14	全体平均・前年度と同じである。学生に図書館に図書申し込みを積極的にするように働きかけたい。

3. 今後の方針

1. 当学科の学生は授業をまじめに取り組むが、授業以外の学習に関して積極性に欠ける傾向にある。これまでも指摘したが、いかに自主的な学習を促すかは恒常的な課題である。そのため、本年度前期から歴史文化基礎(1年必修)を設けて、その中で地域にでて調べること、博物館・美術館見学とレポート提出などを課しており、自主的・主体的な学習をうながしている。その成果は、12項目中、全体平均をやや下回る項目が6あったが、必修科目としては概ね良好であり、今後も継続し、その推移を見守りたい。

2. 評価の芳しくない科目が2-3あった。必修科目で1つ、非常勤講師担当の選択科目で2つである。必修授業は100名を超える学生が受講しており、大人数の問題であるかもしれない。前年度からその傾向にあったため、後期の授業公開は必修授業で行うことになっており、検証をしたい。また、非常勤講師担当の選択科目であるが、そのうちのひとつは休講回数の多さと関連するものと考えられる。そのため、担当教員と相談し、授業日の変更、あるいは担当教員の交替等で対応を考えたい。

1.概評

設問12項目中9項目の数値が昨年度後期の学科平均を上回っている。昨年以來、学期ごとに改善がみられているのは、前学期の授業改善報告の結果をもとに各教員が授業改善に取り組んだ結果といえよう。

[学生]

シラバスの確認に関して、常勤教員および非常勤教員にも声かけをしたことから、授業の最初にシラバスの確認がなされたことがわかる。また、アジア言語とヨーロッパ言語の選択が始まるため、語学の授業での積極的な学生の様子がポイントにあらわれているといえる。

[授業[内容]]

2項目すべてが全体平均を上回っている。授業内容に関する学生の理解度は前回よりも改善され、概ね良好といえる。授業担当者が理解度を考慮した授業運営につとめた結果といえる。

[授業[教え方等]]

4項目すべてが全体平均を上回った。教員は授業方法を改善するためにさらなる工夫や努力が必要である。学科も学生の要望が教員につたわるような工夫を考えていきたい。

[環境・設備等]

学習環境は、2項目とも全体平均を下回った。新設学科であることから、教室の確保が希望通りできなかった点が残念である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	0	4	16	56	37	前回同様、必修授業でシラバスの確認を怠っている学生が多い傾向がある。今後、基礎ゼミやガイダンスを通じて、学生の意識を喚起したい。
2	4.0	0	0	0	5	44	64	必修の語学において、授業への取り組みは積極的であるとみられる。受講生の多い必修科目ほど学生の意識が低くなる傾向がみられることから、学生の積極的な姿勢を引き出す工夫が必要である。
3	4.3	0	0	0	0	9	104	出席状況は良好である。国際学科は語学の授業が多いことから、欠席は厳禁であるとオリエンテーションや各授業で学生に伝えてきた。後期は語学の授業が増えるため、学生の意識が高まることを期待したい。
4	3.5	0	2	10	35	44	22	前回よりも2ポイント下がった。課題の出し方に工夫が必要である。
5	4.0	0	0	2	4	39	68	語学の授業は学生のレベルにあわせて、シラバスの変更がおこなわれたクラスがある。その場合は、担当教員が変更の理由を説明し、さらに改定されたシラバスを学生に提示する必要があるといえる。今後とも、シラバスの確認の重要性を学生に理解させていきたい。
6	4.0	0	0	1	7	44	61	前回よりも2ポイント上がった。学生の理解度に応じた授業運営が行われていると認められる。
7	4.2	0	0	0	7	25	81	全体平均よりも2ポイント高い評価となった。前年度に比べ、数値の低い科目が減少した。学生の満足度は高かったと考えられる。
8	4.2	0	1	0	1	25	86	前回よりも1ポイント上がった。今後も授業の聞き取りやすさについて改善を続けてゆきたい。
9	4.0	0	0	1	10	24	78	前回同様、概ね良好である。一層の改善をはかりたい。
10	4.1	0	0	0	2	30	81	配布資料・教材は効果的であったと認められる、
11	4.2	0	0	0	5	22	86	前回よりも1ポイント下がった。
12	3.7	0	0	0	26	64	23	概ね良好である。来年度から専門の講義科目が増えるので、授業担当者と相談のうえ、図書資料の整備に努めたい。

3. 今後の方針

国際学科は、2年後の完成年度を目指して、カリキュラムの見直しを計画している。そのためには、このようなFDを通して、学生から寄せられた声を各教員が真摯に受け止めることが大切と思われる。

1.概評

前回および大学全体とほぼ同じ値であり、全体としては良好である。今後も引き続き、授業の改善に取り組んでいきたい。

[学生]

授業への取り組み、出席状況等に関して、学生の自己評価は良好である。履修の際にシラバスを確認する習慣も身に付いてきているが、必修科目や教職関連科目など、選択の余地がない(少ない)科目に関しては、シラバスを確認しないまま履修する者が多い。授業外での自主的な学習に関しては、やや低めの状態が続いている。各授業において授業外での学習を具体的に促していく必要がある。

[授業[内容]]

授業とシラバスとの整合性に関しては、例年どおり、良好である。授業内容が理解できたかに関しては、前回より0.1ポイント上昇したが、学生の理解度を確認しながら授業を進めていくなど、より一層の工夫を各教員が行っていくこととしたい。

[授業[教え方等]]

説明の明快さ、話の聞き取りやすさ、視聴覚機材や配布資料・教材の効果等への評価は、わずかではあるがこれまでより高くなってきており、良好だと言える。

[環境・設備等]

学習環境が0.2ポイント低くなった。教室の広さに対して受講者数が多いことが推測される。できる限り配慮していきたい。図書館資料に関しては、わずかではあるが評価が高くなっている。今後も充実を図ってきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	0	2	26	20	11	過去2回に比べ、0.2ポイント低かった。必修科目においてやや低いため、シラバスの確認をうながしていきたい。
2	3.8	0	0	0	9	33	17	過去3回と同値であった。学生の授業への取り組みは、全体として積極的であると言える。
3	4.4	0	0	0	0	0	59	過去3回と同値であった。授業への出席率はかなり高い状況である。
4	3.2	0	2	9	35	11	2	過去3回と同値であったが、大学全体の平均より0.3ポイント低い。各授業において、授業外での学習を具体的に指導していきたい。
5	3.8	0	0	1	7	36	15	前回より0.2ポイント上昇した。今後もシラバスと授業との整合性等、各教員が確認していくこととする。
6	3.7	0	0	4	10	27	18	前回より0.1ポイント上昇したが大学全体平均より0.2ポイント低い。引き続き、各教員に改善をお願いしていく。
7	3.9	0	0	1	10	23	25	過去2回、大学全体の平均とほぼ同値である。引き続き各教員に改善をお願いしていく。
8	4.0	0	0	0	7	19	33	大学全体の平均とほぼ同値であり、おおむね良好といえる。
9	3.7	0	0	6	7	20	25	大学全体の平均とほぼ同値であり、おおむね良好といえる。
10	3.9	0	0	0	7	27	25	大学全体の平均と同値であり、おおむね良好といえる。
11	3.8	0	0	7	4	17	31	前回より0.2ポイント、大学全体の平均よりも0.3ポイント低い。受講者数に比して教室が狭い授業があったためであり、教室変更を検討していく。
12	3.5	0	0	1	25	30	3	大学全体の平均とほぼ同値であるが、蔵書の充実を図るとともに、授業等での紹介をすすめていきたい。

3. 今後の方針

前回と比べると、項目により多少上下があるものの、全体としては良好である。

授業内容の理解度や教え方に関しては、おおむね大学全体の評価と同じであるが、改善点を検討していきたい。

学習環境に関しては、一部の必修科目において、教室の広さに比して受講者が多かったため、やや評価が下がっていた。できるかぎり配慮していきたい。

図書館資料の充実に関しては、大学全体とほぼ同じ評価であるが。引き続き、専門書等を中心に、授業で参考となる資料を購入し、併せて学生への広報を積極的に行っていきたい。

1. 概評

前年度比でみると、授業への出席状況を除いて、前年度よりポイントアップか同様となっている。科目数の変化があまりない一方で、専門科目を中心とした履修者数の増加等もあり、アンケートの母数が5割増したことを考えると、授業の内容や教え方等については、教員の努力が窺える。今後は科目間のバラつきを解消することが課題といえる。

[学生]

授業への出席状況を除いては、前年度を維持かアップとなっている。出席状況については、最もバラつきが少なく、ほとんどの科目では問題がないが、一部の科目が低い(4.0以下)ことが影響している。履修登録や授業への積極性や自主的な学習については、前年度より科目間のバラつきが見られるので、その解消により、ポイントアップの可能性はある。

[授業内容]

授業とシラバスの一致は、資格科目を中心に一致してきているようで、前年度よりポイントアップした。授業内容の理解については、科目間のバラつきが目立った。学生の理解度を配慮した授業運営が求められる。

[授業(教え方等)]

授業の教え方は、前年度には学習環境(教室の広さとの関係)から、聞き取りや板書がしにくい傾向が窺えたが、今年度は改善されたようで、ポイントが前年度維持かアップになっている。今後は科目間のバラつきの解消が課題といえる。

[環境・設備等]

学習環境は、事前の希望調査が細かくなってきたことや視聴覚機材の設置の充実もあり、ポイントアップした。学習図書については、非常勤教員と他学科教員の科目について、ポイントが低い傾向があるので、解消が必要である。

2. 各項目の評価

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.5	0	1	3	56	58	11	シラバスの事前確認は、前年度より0.1ポイント高くなり、UPSHOWAによる事前確認が定着してきたようである。演習科目よりも、講義科目の方が、全体的にややポイントが高い傾向が窺える。
2	3.8	0	0	0	15	71	43	授業への積極性は、前年度と同じポイントであった。演習・実習系の科目の評価に比べると、講義科目のポイントが低い傾向が見られた。
3	4.2	0	0	0	0	9	120	授業への出席状況は、前年度に比べ、0.1ポイント低下した。授業の内容の難易度が高そうな科目や、1講時の授業などでポイントが低い傾向がある。
4	3.3	0	1	21	60	44	3	授業外での自主的な学習は、前年度と同じであった。卒論関係の授業、実習指導関係の授業でポイントが高く、選択科目や講義科目でポイントが低い傾向がある
5	3.6	0	0	0	20	79	29	授業とシラバスの一致については、前年度より0.1ポイント高くなった。シラバス確認と連動して高くなってきている様子が見える。資格科目が高い傾向にある。
6	3.7	0	0	3	29	59	38	授業内容の理解度は、前年度と同じポイントであった。しかし、前年度よりも、科目間のバラつきが見られ、同じ開講年次の科目でも理解度に差が見られる。
7	3.8	0	1	2	20	59	47	説明の仕方は、前年度と同じポイントであった。卒論関係の授業や実習関連の科目でポイントが高く、授業内容の難易度が高そうな科目では低い傾向が窺えた。
8	3.9	0	1	3	12	58	55	聞き取りについては、前年度と同じポイントであった。しかし、前年度よりも科目間のバラつきが見られた。全体に多人数科目で、ポイントが低い傾向が見られた。
9	3.7	0	1	2	29	65	32	板書等については、前年度よりも0.1ポイント高くなった。科目間のバラつきと、従来差が見られがちであった講義系科目と実習・演習系の科目との差も減少した。
10	3.8	0	0	2	11	76	40	配布資料・教材については、前年度と同じポイントであった。全体的に、非常勤よりも準備がしやすい環境にある学科教員のポイントが高い傾向にある。
11	3.9	0	0	5	13	55	56	学習環境は、前年度より0.1ポイント高くなった。前年度は、最もバラつきの多い項目であったが、今年度はバラつきも減り、学習環境の向上が窺えた。
12	3.5	0	0	0	53	62	14	参考図書は、昨年度と同じポイントであった。学科教員の科目に比べると、非常勤や他学科教員の科目でポイントが低い傾向にある。

3. 今後の方針

・シラバスの確認については、年々ポイントが上がってきており、シラバスの確認が定着してきている様子が窺える。シラバスには、授業内容以外にも、テキスト指定や成績評価、さらには他学科履修に関する情報等、重要な内容が含まれているので、確認と活用の必要性を1年次の教務オリエンテーション時や掲示等を通して推進していく。授業への積極性については、おおむね良好であるが、講義系の授業を中心に学生の参加や積極性が可能となる授業展開方法などを授業公開やFD等を活用して、各教員が工夫を図るようにする。出席状況については、1講時の授業があまりよくないようなので、遅刻対応(遅延の取り扱いも含めて)学科で対応策を検討していく。授業外での自主的な学習については、教員から課題の提示や図書館の積極的利用を促すことなどをしていく。

・授業内容については、資格科目を中心に、法改正による移行期間として、新カリキュラムと旧カリキュラムの表記内容等がわかりにくい場合がある。担当教員は、授業開始時にその説明を行うとともに、シラバスの表記もわかりやすい内容になるよう努力する。授業内容の理解については、年々全体のポイントは上がってきているが、前年度に比べるとバラつきが出てきているので、授業の教え方(説明の仕方、板書等、配布資料・教材)とともに、授業公開やFD等を活用して、各教員が工夫を図るようにする。

・学習環境については、事前の希望調査の内容が充実(きめ細かくなってきた)ことと、視聴覚機材の設置教室が多くなってきたことでポイントアップが見られたが、教室の広さに関しては、必ずしも適切とはいえない広さで授業を実施している状況が残っているので、教室変更の可能性を探るなどして対応を図るようにする。

1.概評

評価のポイントを見る限り、前年度同期より低い値を示す項目はなく、全体平均と同じ値及び前年度同期より高い値を示す項目が目立って多い。全体において改善されていると言える。

[学生]

学生の自己評価が低いこともあろうが、出席状況がよいことを除き、全体の値が低く、前年度同期より改善されているものの、全体平均より低いことが目立っている。学生の授業への取り組みは、シラバスに書くだけでなく、授業でも通常促していきたい。

[授業[内容]]

シラバスに沿って授業を行なっているかという点は、大きく改善されたようだ。これは学生が授業内容をシラバスで確認するようになってきたこととも関係があるかも知れないが、教員の努力の成果だと思い、評価したい。学生の授業内容の理解も点数上は改善されていることがわかる。よい傾向だと思う、さらに改善していきたい。

[授業[教え方等]]

前年度同期と同じか、高い値をしめしているため、とくに気になるようなことはないと思う。配布資料や教材等の効果への評価は全体平均よりも高いので、ぜひ維持していきたい。

[環境・設備等]

学科平均が全体平均より高い。学生は学習環境(人数、部屋の広さ等)に満足しているのではないかと。図書館の参考書等についても、前年度同期より評価が高いので、図書館には引き続き参考書などの整備を期待したい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.5	0	2	9	39	52	23	全体平均3.7より低い、前年度同期より0.1ポイント上がっている。Web登録の浸透につれて学生のUP SHOWAへのアクセスが増えているのか。よい傾向だ。
2	3.9	0	0	0	16	69	40	前年度同期3.8よりやや高い。全体平均と同じ。比較的高い値を維持しており、とくに心配はないと思われる。
3	4.3	0	0	0	0	14	111	本学は出席管理が厳しいためか、全体平均も学科平均も諸質問中もっとも高い値を示している。学生には引き続き、出席状況の維持を促していきたい。
4	3.5	0	1	14	53	43	14	前年度同期より0.1ポイント上がっている。シラバスで授業外での自主的学習を促した効果があったのか。シラバスだけでなく、授業でも授業外の自主的学習を促していきたい。
5	3.8	0	0	3	15	63	44	全体平均の3.9よりやや低い、前年度同期より0.3ポイント上がっている。学生がシラバスを確認していることとも関係があるだろうが、さらに努力を続けたい。
6	3.9	0	0	10	16	47	52	例年同様、比較的高い値を維持している。全体平均と同じ。前年度同期より0.1ポイント高い。
7	4.0	0	2	3	16	37	67	前年度同期と全体平均と同じ。高い値を維持している。
8	4.1	0	1	5	14	24	81	前年度同期より0.1ポイント高い。全体平均と同じ。学科平均ではもっとも高い値となっている。
9	3.9	0	0	9	20	37	58	全体平均より0.1ポイント高い。維持していきたい。
10	4.0	0	0	1	14	43	67	前年度同期より0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。配布資料、教材等の効果をさらにあげたい。
11	4.2	0	0	3	9	27	86	前年度同期より0.2ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。学生は学習環境(人数、部屋の広さ等)に満足していると思う。
12	3.6	0	0	1	44	63	17	前年度同期より0.1ポイント高い。全体平均と同じ。引き続き図書館の参考書などの整備を期待したい。

3. 今後の方針

- ☆ 全体平均より低いのがシラバスに関連する1と5の項目のみで、いずれも改善されている。とくに5(授業はシラバスに沿って行なわれたか)はよい評価を受けているが、学生に履修登録前のシラバス確認を強く促していくために、教員がシラバスに沿って授業を行なうことをさらに求めたい。
- ☆ 前記1と5の項目を除き、その他の項目がすべて全体平均と同じか、または全体平均より高い評価を受けている。前年度同期と比較しても、評価が低い項目は0で、評価が同じのは4項目。その他の8項目はいずれも前年度同期より高い評価を受けているので、たいへんよい傾向だと思う。とくに学生の出席状況は、もっとも高い評価をつけた科目が125科目中111科目もあった。次いで、「学習環境」についてもっともよい評価をした科目が86あり、現代教養学科の学生が昭和女子大学の学習環境に満足していることを示していると考えられる。これは専門科目の少人数教育とも関係が深いので、今後も可能な範囲で、20人程度の少人数授業を実施していきたい。

1.概評

[学生]

授業への積極性や出席状況についてはポイントが高く、前回同様、意欲的かつ堅実な姿勢で臨んでいる様子がみられる。シラバスでの授業内容の確認や授業外の自主学習の面ではわずかに評価が下がった。強く意識付けをはかりたい。

[授業[内容]]

シラバス内容と授業内容の相関性については前回に続き評価が高まったが、授業内容の理解については高ポイントではあるが前回と同程度の評価である。授業外の効果的な自主学習の方法や学習環境を整える工夫を模索しつつ、さらなる向上を目指す。

[授業[教え方等]]

説明の明快さ、使用機器の効果については前回同様の評価であったが、聞き取りやすさや資料・教材の効果についてはわずかに評価が下がった。授業技術や効果の向上のための教員間の情報交換を進めたい。

[環境・設備等]

学習環境としての教室の評価は前回同様であるが、話の聞き取りやすさのポイントが微減していることは看過できない。また参考図書の整備についてもわずかに評価を下げている。図書館との緊密な連携で資料の充実をはかりたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.8	0	1	3	20	46	36	シラバスへの意識は、ポイントが前回よりわずかに下がり、停滞している。引き続きガイダンス等で強く呼びかけ、授業開始後の意欲に結び付くよう努める。
2	4.3	0	0	0	2	26	78	前回に続き積極性の高い学生が多く喜ばしい。この状態が維持できるよう、引き続き授業内容の工夫と学生への指導に努める。
3	4.6	0	0	0	0	1	105	出席状況は前回同様、良好な状態だが、欠席の目立つ学生にはクラスアドバイザーの援助を行い、早めの対応を心掛ける。
4	3.9	0	0	1	24	41	40	前回よりわずかながらポイントが下がった。下級学年においては過密な時間割も一因と思われるが、自主学習の必要性のさらなる意識付けをはかる。
5	4.0	0	0	0	5	52	49	前回よりもポイントは上がっており、この状態を維持しつつ、シラバス内容の充実によりさらに満足度を高めたいが、他学科履修可の科目では難しい場合もあるか。
6	4.1	0	0	1	5	35	65	前回同様良好な評価を得ている。引き続き、理解しやすい授業の実施に努める。
7	4.2	0	1	1	5	31	68	授業間に多少の差はあるが、おおむね良好な評価を得ている。引き続き学生の実態に即した明快な説明を心掛ける。
8	4.2	0	1	1	4	30	70	わずかながら評価を落とした。授業毎の差が大きく、教室の大小や履修者数によっても左右されていると思われる。学科で可能な環境整備に努める。
9	4.1	0	1	2	10	32	61	前回同様の評価である。授業内容や学生の実情に応じた効果的な機器の使用、板書等の工夫に努める。
10	4.1	0	0	1	2	40	63	良好な評価であるが、前回よりポイントがわずかに下がっている。引き続きより効果的な配付資料や教材の工夫を心掛ける。
11	4.2	0	0	3	7	25	71	前回に引き続き、80年館の学習環境に良好な評価がなされている。しかし大教室で多人数の授業では過密気味な状況がみられる。
12	3.8	0	0	0	24	48	34	意識的に努力を続けてきたが、今回わずかながら評価が下がった。図書館との連携を深め資料の充実をはかり、学生の利用スキルが高まるような指導に努める。

3. 今後の方針

授業評価については、前回に引き続き概ね良好な状態を維持しているが、わずかに評価を下げた項目が5つある。主に学生の授業準備にかかわる項目と、授業の環境や資料、参考図書に関する項目である。

学科の特性上、明確な目標のもと着実な努力を続けている学生が多いが、一方で学生の多様化も起こりつつあり、そうした状況に応えられる的確かつ柔軟な学習機会を提供していくとともに、教員・保育士を目指すことの意味を問い直し覚悟を養う環境の整備も必要と考えている。

カリキュラムについては、学科定員増による学生数の増加に対応して、学生が免許資格の取得に過不足なく、希望する科目をできるだけスムーズに履修できるよう微調整を行い、前年に引き続き改善を続けていく。また平成23年度以降のカリキュラムについては、保育士資格に関する法令改正を反映したカリキュラム変更となるが、学生個々の進路希望に応じた学修が可能となるよう検討を進めていく。

環境・設備については、学科定員増に伴う履修者増加のために過密気味となった科目の教室の学習環境維持に引き続き努力するとともに、より効果的な資料や機器の使用について、教員間の情報交換による研鑽に努める。また図書館との連携による図書資料の充実には一段と力を入れなくてはならないと考える。

学生生活の様々な面でのケアについては、クラスアドバイザーを中心に学科教職員全員で学生についての情報を共有しながら綿密に行っているが、引き続き個々の学生の状況に応じたきめ細やかな対応に努めていく。

1. 概評

全体として学科平均が全学の平均を下回る結果となった。前学期と同じであるが、良い状況・良くない状況ともに本学科特有の科目構成と関連した傾向（演習科目と講義科目、理数系科目など）がみられる。

[学生]

出席状況は良い科目もあるが、学科全体としては全学平均を下回る。さらに授業外での自主的な学習については、演習・実習科目は課題（作品）の影響もあり積極的に取り組んでいる傾向があるが、講義科目では自主学習が少なく、こうした自主学習を促す工夫が必要である。

[授業内容]

授業内容がシラバスで予想した内容だったかについても、講義科目より演習科目のほうが高い数値を示している。さらに授業内容の理解についても、講義科目および理数系科目において理解できない傾向にある。講義科目においても学生の体質を理解した上での授業運営上の工夫が必要と考えられる。

[授業教え方等]

説明の明快さ、話の聞き取りについても上記同様、講義科目より演習科目の方が高い評価である。講義科目は授業外での自主的な学習も少ない傾向にあることから、授業自体の理解を深める工夫と同時に効果的な自宅学習を促す努力をしていきたい。

[環境・設備等]

学習環境は多人数受講科目において評価が低い傾向にある。一方で図書館の参考図書整備状況については、他の項目に比べると評価が低い。これは前学期も同様の傾向があった。各授業担当者が参考図書の見直しを行うと同時に、学生への図書館利用アドバイスなどを継続的に行っていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	1	24	87	40	全体としてよく確認している傾向にある。低学年でのシラバス確認指導を今後も継続して徹底していきたい。
2	3.9	0	0	0	24	74	54	科目平均値が 3(中間値)未満の評価科目は無い。出席状況と合わせて積極的に授業に取り組んでいる状況がうかがえる。
3	4.1	0	0	0	2	32	118	出席状況は良い状態である。科目平均値が 4 以上のものが半数以上を占める。評価 3 ≤ <3.5 の科目はいずれも 4 年次対象の科目であり、就職活動の影響があると考えられる。
4	3.6	0	0	11	60	42	39	授業以外の自主学習では中間値が多い傾向にある。全体的には演習科目の方が高い評価である。中間値以下の科目の中に含まれる演習科目もある。対策には科目毎の事情を見ていく必要がある。
5	3.8	0	0	0	16	89	47	最も多い回答は 3.5 ≤ <4 であり、授業内容はシラバスで予想したものであったとの回答傾向が多い。よりシラバス内容が充実していると考えられる。
6	3.7	0	1	4	34	60	53	授業内容の理解で最多回答は 3.5 ≤ <4 である。中間値未満の 5 科目の多くは理数系科目であった。これらの科目は自主学習も少ないので、その必要性も含めて指導していきたい。
7	3.9	0	1	3	20	59	69	説明が明快であるかの問いに 8 割以上の科目が 3.5 以上の評価である。一方で中間値未満が 4 科目あり、これらは授業内容の理解や自主学習の項目とも連動する傾向にある。
8	3.9	0	0	4	19	62	67	授業中の話がよく聞き取れたという回答(4 以上の評価)が 8 割以上を占める。マイク設備の充実等が成果を得ていると考えられる。
9	3.6	0	0	4	25	72	47	授業中の教材提示については 8 割弱の科目が 4 以上の評価を得ている。学科の特徴もあるが、各教員が視覚的效果を意識した授業運営に取り組んでいる成果と考えられる。今後も維持していきたい。
10	3.8	0	0	3	24	74	51	前問同様配布資料に関しても 8 割以上の科目が 4 以上の評価である。視覚効果と合わせて配布資料も工夫していきたい。
11	4.0	0	0	1	17	60	74	学習環境はほぼ適切な状況にある。評価が中間値未満の科目は 1 科目である。この 1 科目についても 2.9 であるのでほぼ中間値であるといえよう。
12	3.5	0	0	0	65	73	14	参考図書の有無に関しては他の項目に比べると評価が低い。各教員がより積極的に図書の整備を進めると同時に、関連図書の所在を含めて授業中に指導する必要がある。

3. 今後の方針

全体の傾向として、学科平均が全学平均値を下回る結果となっている。

出席状況や教員の説明の明快さ・よく聞き取れたかの評価項目においてはいずれも良い評価が得られている。視聴覚設備の拡充や各教員の授業運営工夫の成果が現れていると考えられる。これらの項目については、今後もこの状態を維持できるようにしていきたい。

一方で教室での積極的な参加や授業外の自主的な学習があまりなされていない科目が多い。特に講義科目や一部の理数系科目については、自主学習が少ない＝理解できない＝話が聞き取れないといった傾向も見られる。今後も各教員が授業外の自主的な学習を促す工夫が必要である。

学科平均値が最も低い値 3.5 を示したのは「参考図書が図書館に揃っているか」という項目であった。しかし前学期（H21 年度後期）からは 0.1 ポイントではあるが上昇している。これまで以上に各教員が積極的に授業関連図書の推薦を行うと同時に、授業内で参考図書の紹介および図書館の利用について触れていくことが必要である。

今回のアンケート結果では、演習および実習科目に力を入れている本学科の学生像が浮かんでいる。一方で、講義科目や理数系科目についてはあまり積極的ではなく、その結果としてさらに理解できないという流れが読み取れる。こうした科目には、視覚的効果が得られるような授業の工夫や、自主学習を促す工夫が必要であるが、同時に学生自身に自主学習の重要性を理解させることも必要である。次学期においては各科目でこの点に留意した授業運営を行っていきたい。

1.概評

3、4年次学生は編入生のみであるが、新学科として全学年がそろい、ほぼすべての授業が開講された。学生の評価から、改善すべき点も見受けられたが、2年後の完全完成年度を見据え、学科を挙げて改善に取り組む。

[学生]

出席は良好で、まじめに取り組んでいる様子が見え、自主学習が苦手なようである。

[授業[内容]]

内容については満足度が高かった。

[授業[教え方等]]

1年次では、入学生数が多かったため30人編成の少人数クラス運営としたが、高校から大学専門教育への橋渡しとなる基礎系の科目で評価の割れる様子も見受けられた。能力別クラスの検討が必要である。

[環境・設備等]

関係各所のご協力により、良好な環境を保つことができた。多人数クラスに対応できるよう、今後とも環境整備に努める。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <□.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.3	0	0	5	30	24	8	例年通り、選択科目ではきちんと確認をしているが、基礎系科目で確認が不十分であるように見受けられた。
2	3.8	0	0	0	13	24	30	実験・実習・演習では積極的に取り組んでいる。講義科目でも、積極的に取り組ませる工夫が必要。
3	4.5	0	0	0	0	2	65	大変良好である。特に、苦手科目で評価が高いことは、学生の気持ちの表れか、興味深い。
4	3.3	0	1	10	34	16	6	講義科目で、十分に時間が取れないのは、実験・演習科目でのレポート負担が重過ぎるからか？検証が必要。
5	3.7	0	0	0	12	43	12	No.1 の評価と連動している様子が見え、進歩が見られた。
6	3.4	2	2	2	17	28	16	選択科目では評価が高いが、基礎科目では大きく評価が割れた。苦手科目の克服に学科をあげて努める。
7	3.5	0	2	7	14	19	25	比較的満足度は高かった。評価の割れた科目については、到達度別クラスなどの検討が必要。
8	3.6	0	0	6	12	23	26	比較的満足度は高かった。学生が苦手とする科目でやや聞き取りにくい、という評価も・・・。
9	3.3	0	0	5	15	25	20	栄養士必修応用系の科目で、プレゼンの機会があるためか、教員の努力を認めてくれているようである。
10	3.6	0	0	2	10	32	23	演習系、選択、栄養士応用系で評価が高かった。基礎系でも学生の興味を導くよう、さらなる工夫が必要。
11	3.9	0	0	0	6	32	29	良好。
12	3.4	0	0	1	39	18	9	新規科目での図書の充実をはかる。

3. 今後の方針

1) シラバスについて

導入授業が廃止され、WEB 登録が導入されたことにより、シラバスの確認がより重要になった。
教員には、より具体的でわかりやすいシラバスの作成を依頼し、また、学生の状況に合わせ、内容を変更する場合には、授業内において周知することを徹底する。
学生には、シラバスを確認する習慣を身につけるよう促す。

2) 学習の姿勢について

教員は、実験・演習系の科目だけではなく、講義科目においても課題を与える、問題を提起するなどの工夫をする。
学生には、講義 90 分が 2 単位である意味を理解させる。

3) 内容について

特に基礎系の科目で到達度別クラスを検討する。

4) 学習環境について

- ・ スクリーンの設置位置と黒板の位置の見直しをはかる。
- ・ 小学校校庭に近い教室については、音響・エアコン設備の見直しをはかる。

5) 図書の整備について

学生による、図書購入ツアーを周知し、学生目線による図書の充実をはかる。

1.概評

生活科学科食物健康学専攻には3、4年次学生のみ在籍している。
すべての項目で、前年度同 Semester の評価を上回る結果となったが、これは、上級学年では自分の専門性についてはっきりしたビジョンがあるためではないかと推察される。

[学生]

専門の上に立つ選択科目が多いため、シラバスの確認も充分浸透し、授業への積極的な参加姿勢が見受けられた。

[授業[内容]]

概ね良好な評価である。学生自身が興味をもつと、明らかに授業評価が向上するという点で、考えさせられる結果である。

[授業[教え方等]]

教授方法についても、評価は良好であり、満足度は高いと考えられた。

[環境・設備等]

選択科目においては、健康デザイン学科へ受け継がれる領域も多く、今後とも図書の充実をはかりたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.6	0	0	0	13	12	7	昨年度に比し0.4ポイント上昇した。高学年学生のみ在籍で、選択科目が多いことが原因と考えられる。
2	4.1	0	0	0	4	6	22	授業への参加は非常に積極的であった。
3	4.5	0	0	0	0	1	31	出席も良好である。
4	3.6	0	0	3	13	9	7	好んで履修した科目ゆえか、自主学習の評価にも向上がみられた。
5	3.8	0	0	0	4	18	10	シラバスの意義、活用について定着したと推察される。
6	3.9	0	0	0	3	15	14	良好である。
7	4.0	0	0	0	5	9	18	良好である。
8	4.2	0	0	0	0	11	21	大変良好である。
9	4.0	0	0	0	5	8	19	良好である。
10	4.1	0	0	0	4	8	20	良好である。
11	4.1	0	0	0	4	9	19	良好である。
12	3.7	0	0	0	13	7	12	特定分野において図書の未整備があり、今後も関係各所の協力を仰ぐ。

3. 今後の方針

当該学科は、現在 3、4年次学生のみ在籍である。

上級学年の学生は、自分の興味関心や目標が明確なため、授業に対する評価は厳しい面もあり、授業内容において、「ふつう」評価があるのは、その表れと受け止められる。しかし一方で、楽しんで積極的に授業に参加しており、満足度が高いようすも見受けられた。

図書の整備において、特定分野の資料がまだ未整備であることから、評価が割れた。今後とも、図書の整備に努める。

1.概評

昨年度から生活科学科管理栄養士専攻と管理栄養学科の評価が合わせたデータの提供がなされ、今年度から同質の評価を比較検討できた。各設問共に評価が若干高くなっている。管理栄養学科の学生が2学年を占めてきたため、より管理栄養士を目指す目的が明確になり、ばらつきがあまりなく、評価が偏り、結果として顕著に表れてきた。

[学生]

例年通り、授業への出席は良好で、特に実験実習への取り組みに評価が高い。授業時間が長いので、授業外の自主的な学習は、授業内と比較すると評価は低い。経年的にみても教員の支援により学生の学習意欲は高まってきた。

[授業内容]

栄養士養成課程の授業内容は、法的に定められているので、シラバス通り、授業は進められているが、様々な学生達の能力、理解力に合わせて授業を行なうため、授業の内容や進め方が教員ごとで工夫されている。今後も学生達の実情に合わせた授業の組み立てが必要と思われる。

[授業「教え方」等]

概ね良好である。教え方の評価としては教員個人の技量と学習環境の両面から評価されることが重要であるため、今後も常に学生の学習意欲が高められるような授業展開の方法を各教員が行う。

[環境・設備等]

栄養士養成課程に必置義務のある施設・設備等についてはすでに整備されているので、学ぶ環境としては概ね良好である。設備、図書については学生・教員の要望を把握し、関係部署の協力を仰ぎながら更なる充実を図りたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学□平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.5	0	0	7	36	43	2	改善がみられるが、他の設問に比較すると評価が低い。学年差もあるので、シラバスの重要性を引き続き、指導していく。
2	4.0	0	0	0	3	22	63	例年通り、授業への取り組みは積極的である。今後も継続できることを期待する。
3	4.6	0	0	0	0	2	86	設問中、最高得点である。意欲的に授業に出席していたことは評価する。
4	3.6	0	0	4	25	43	16	授業中の意欲的な取り組みに比較すると、評価が低い。授業外の自主的な学習を促すため、各教員が支援していく。
5	3.8	0	0	0	3	70	15	設問1と関連性があるので、シラバスの確認と活用がなされていない科目は、評価が低い。専門科目の中でも選択科目のシラバスの活用がなされ、この評価も高い。
6	3.8	0	0	4	8	46	30	高学年になるにしたがって、授業内容は理解されている。学年によって理解力に差があるため、低学年には特に各学生に見合った支援を行なう必要がある。
7	3.9	0	0	5	12	23	48	概ね良好である。今後もこれを維持できるように努める。
8	3.9	0	0	3	7	32	46	概ね良好である。教室によってマイク等の施設設備の整備は整っていない所もあるので、今後、改善を促していく。
9	3.8	0	0	2	11	41	34	例年から改善がみられた。授業内容・進め方によって使い方が違うが、今後も効果的な使用方法について考えていく。
10	3.9	0	0	1	6	37	44	概ね良好である。授業内容・進め方によって使い方が違うが、今後とも効果的な使用方法について考えていく。
11	4.2	0	0	0	0	11	77	評価は高く、栄養士養成施設の授業人数 40 名上限が守られていた。
12	3.7	0	0	1	5	67	15	概ね良好であるが、例年、評価が低い設問である。各教員からの図書の推薦や学習本の複数整備について今後も考えていく。

3. 今後の方針

今期は、全般的に良好であり、概ね評価は高い。

管理栄養士養成という目的意識が高く、授業は意欲的である。今年度から新たに専門科目の資格必修科目や選択科目が開講され、学生の受講状況に何らかの変化が予想されたが、従来とそれほどの変化はなかった。

栄養士養成課程では、授業の公欠は原則、認められていないので、授業への出席は最高得点を得た。授業内容では、例年、一定で大幅に逸脱することができないため、学生がシラバスを確認することなく、授業に臨むことは従来通りである。今後、シラバスの重要性を学生達に周知徹底させて授業に臨む姿勢を促していきたい。

今年度、後期から学科あげての授業公開を実施する予定である。緊張感あふれる充実した授業を行なうため、その結果を踏まえ、教員の授業展開の能力の向上と学習の環境づくりの両面からより良い授業を運営できるよう、検討し、実行していきたい。

1.概評

全12項目の内、9項目について、4以上に回答が集まっている。残りの3項目についても、3.5~4.0に回答が最も多く集まっており、概ね平均以上の評価が得られている。授業外で自主的な学習をしたかという項目について、2.5~3.0の回答が比較的多かったため、この点について自主的な学習を促す工夫が必要だと思われる。

[学生]

概ね、シラバスもよく確認し、授業にも積極的に参加し、出席も良いという回答が得られている。授業の中で問題を解かせたり、意見を言わせたりといった授業が多いと思われる。上記のように、自主的な学習についてはやや平均以下の回答となっているので、課題を課すなどして、学外の学習を促す工夫をしていく。

[授業[内容]]

概ねシラバス通りに授業が行われており、授業も理解できているようである。シラバスを1回~15回まで細かく書くことで、授業内容がより明確になったことが1つの理由として考えられる。また、教員同士でのコミュニケーションがよいため、よりよい教材や教え方などを日常的に話し合っていることも、理由の一つと考えられる。数値の低かった1科目は、項目5・6・7・9はすべて同じ1つの授業である。教材が専門的すぎたためと思われる。担当教員に改善をお願いする。

[授業[教え方等]]

概ね平均以上の評価となっている。少人数の授業を行っているため、目が行き届いているためと考えられる。2~2.5の科目については、上記にも書いたが、同じ科目である。担当教員に改善をお願いする。

[環境・設備等]

大学全体として教室が足りないという状況にあるが、概ね良好である。図書館での蔵書についてはまだ検討の余地があるので、教員が関連図書を購入を図書館に積極的に依頼することで、徐々に解消をしていきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	3	10	75	41	概ね平均以上である。シラバスを確認していなかった3科目は学科の必修と、編入対策であり、事前に内容を理解していたためと思われる。今後も確認を促したい。
2	4.0	0	0	0	8	53	68	ほぼ平均以上である。今後もさらに学生が積極的に取り組むように工夫をしていく。
3	4.3	0	0	0	2	16	111	良好な結果である。多くの学生が、真面目に授業に出席していることが分かる。今後も欠席者へのケアを行い、出席を促したい。
4	3.6	0	0	14	42	51	22	概ね平均以上である。2.5~3の科目は講義科目と、授業外では学習しにくい科目が多いため、やや数が多い傾向にあると考えられる。
5	3.9	0	1	0	9	54	65	概ね良好である。2.5未満の1科目は上記に述べたとおりである。
6	3.9	0	1	2	12	50	64	概ね良好である。2.5未満の1科目は上記に述べたとおりである。3未満の2科目は資格科目であり、内容が専門的だったためと考えられる。
7	4.0	0	1	2	5	43	78	概ね良好である。2.5未満の1科目は上記に述べたとおりである。
8	4.1	0	0	2	5	27	95	非常に良好である。教室環境を考慮しながら、更に分かりやすい授業に教員一人ひとりが努めていきたい。
9	3.8	0	1	5	14	50	59	概ね良好である。2.5未満の1科目は上記に述べたとおりである。授業に合った資料を作成するように一層努めていく。
10	4.0	0	0	2	13	38	76	3以下の科目が2つあるものの概ね良好である。教員の努力と、視聴覚機器の増設により改善が図られたと考えられる。数値の低かった科目については資料の見直しをおこなっていく。
11	4.1	0	0	1	13	29	86	3以下科目は司書科目であり、人数多数によるものと考えられる。大教室への変更や授業数の増加が必要と考えられる。他は概ね良好である。
12	3.7	0	2	0	37	72	18	2.5以下の2科目は科目名が異なる同一科目である。担当教員は非常勤講師であるので、参考図書の推薦を依頼することで改善を図りたい。

3. 今後の方針

評価を真摯に受け止め、教員がそれぞれよりよい授業運営を行えるように創意工夫に努めていく。資格科目については、専門的な内容を、15時間という決められた時間内に入れるため、分かりやすさや理解度の点で数値が落ちることがあるが、資料作成や自主学習を促すことで改善を図っていかれればと思う。参考図書については、担当教員に推薦図書を積極的に図書館に依頼することをお願いすることで改善を図りたい。参考図書の充実は、学外学習の促進にもつながると考えられる。

1.概評

22年度の食物科学科は専攻科生12名である。専攻科生は栄養士の資格は既に取得済みで、さらなる目的をしっかりと持って入学している。前期の開設科目は7科目であり、その科目を中心に報告する。

[学生]

学生は、一人一人将来の自分を描き、その目標に向かい向上心をもって取り組んでいる。そのため、授業にも積極的に臨み、出席状況も良好である。

各教科ごとに、課題やレポート提出が課せられており、授業時間外にもかなりの時間を使い勉強しているのだが、その学習を自主的学習ととらえておらず、自主的学習の評価が低かったと思われる。機会あるごとに自主的学習を促す工夫が必要と思われる。

[授業[内容]]

授業は、必修科目は12名、選択科目はそれ以下での実施である。そのため授業環境としては、とても恵まれた良好な状況である。教員も履修学生の数に合わせ、授業の展開や使用教材に工夫をこらし進めており、それが学生の理解度の高さや聞き取りやすさに繋がっていると思われる。

[授業[教え方等]]

少人数授業という特徴を十分に生かし、教材、資料、power point 等を効果的に用いた授業への取り組みが評価され、良好である。

[環境・設備等]

概ね良好との評価を得た。12名で普通教室を使用しているため、スペース的にも、ロッカーの数も充分整っており、満足度は高いと思われる。

参考図書については、授業担当者が必要な図書の確認を行い、さらなる整備充実に向け、図書館へ働きかけていくことが必要である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	0	0	10	5	3	昨年度よりもしっかりと確認して授業に臨んでいることが伺える。
2	3.9	0	0	0	4	4	10	全体的に積極的に取り組んでいる
3	4.1	0	0	0	0	2	16	良好である
4	3.4	0	0	2	8	6	2	授業担当者が、レポート作成や課題などを課しているが、自主的な学習としては不十分と評価している。
5	3.6	0	0	0	4	□1	3	ほぼシラバス通りと評価している。
6	3.8	0	0	0	3	9	6	十分に理解しているようだ。
7	3.9	0	0	0	2	11	5	明快と評価している。
8	4.2	0	0	0	0	8	10	とても良好と評価している。
9	3.4	0	0	0	3	8	6	科目によるばらつきはあるが、おおむね良好と評価している。
10	4.0	0	0	0	2	10	6	科目によるばらつきはあるが、おおむね良好と評価している。
11	3.7	0	0	1	4	9	4	科目によるばらつきはあるが、おおむね良好と評価している。
12	3.6	0	0	0	11	7	0	自主的学習を促すためにもさらなる参考図書の充実整備に向け教員も積極的に協力したい。

3. 今後の方針

食物科学科専攻科は、23年度はないため、22年度後期にむけての方針として報告いたします。

少人数クラスによる授業運営の効果が、さまざまな面であらわれていると思われる。

学生はそれぞれに目的意識や向上心を持ち勉学に取り組んでいるが、個人差もあるため、さらに、授業に主体的・積極的に取り組む姿勢をしっかりと植えつける工夫が肝要と考える。

1.概評

[学生]

項目4を除く数値はここ何期か横這いで、おおよそ良好とみなせる。項目4の3.2という数値は少し深刻に考えるべきもので、自ら学ぶという姿勢が学びの本質であることを、学生に理解させるような講義の工夫が教員には求められている。

[授業[内容]]

シラバスの内容と講義内容がほぼ合致していて整合性があることが、項目1と5の数値から窺える。項目6の数値3.8と項目7の数値4.0からは、学生が講義内容におおむね満足していることが判る。

[授業[教え方等]]

項目7から10までの評価はおおよそ良好で、学生が講義の在り方にもある程度満足していることが認められる。説明の明快さについての評価が4であることは、端的にそのことを示している。

[環境・設備等]

概ね学生はこの項目に関しても満足していると考えられる。学習環境についての値が全体評価と比べ0.3ポイントも低いのは、一般教養科目は大人数教室が多く、講義に当事者意識がもてなかったり、静粛な環境が保てないせいかな。参考図書の実践に関する評価も、他と比べ相当に低い。参考図書の充実とその積極的な情報提供を図っていききたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	1	9	85	41	3期、数値は横這い。全体平均を、0.2下回るが、シラバスは概ね活用されていると見做せる。更なる活用を図っていききたい。
2	3.8	0	0	0	15	68	53	3期、数値は横這い。全体平均を0.1下回るのは、講義型の授業が多いせいかもしれないが、いずれにしても講義の方法に工夫を凝らす必要がある。
3	4.3	0	0	0	0	3	133	4期連続で、12項目中で最も高い数値を示している。しかも今期は前期を0.1ポイント上回っている。講義には何はさておき出席するという習慣が充分身に付いていると言える。
4	3.2	0	0	12	90	19	15	全体平均もそうであるが、12項目で最も低い数値。前項目と対照的な数値で、本来の学びが「自ら学ぶ」であるはずであることから考えると、少し深刻な数値である。
5	3.8	0	0	1	5	72	58	No.1と連動しており、学生がある程度シラバスを活用していることが窺われる。
6	3.8	1	0	2	14	60	59	4期とも同一の数値で、おおよそ良好と言える。
7	4.0	0	1	0	15	32	88	前期より、0.1ポイントよい数値で、ここ数期で最もいい数値。良好と認められる。
8	4.0	0	0	1	15	24	96	5期連続で同じ数値。良好と言える。
9	3.8	0	0	3	20	42	71	4期連続で同じ数値。概ね良好と言える。
10	3.9	0	0	1	10	50	75	ここ数期同一の数値であるが、概ね良好と言える。
11	3.8	0	0	4	12	61	59	二期続けて、0.1ポイント値を下げている。専門科目と比べて大人数の教室が多く、静粛な教室環境が保てないことが反映されているのか。分析検討の要あり。
12	3.5	0	0	1	46	86	3	他の項目に比して、見劣りがする。さらに積極的に参考図書の充実と周知を図っていききたい。

3. 今後の方針

- ・導入授業が廃止され、殊に教養科目は、学生が登録科目を選択する際に最も手引きとなるものがシラバスであるので、今後ともシラバスの整備、充実を図っていきたい。

1.概評

各項目の趣旨が異なるので、全項目の評点平均値を出すことには、意味がないかも知れないが、時間経過で見るために敢えて示すと、2009年度前期が4.1、後期が4.2弱であったのに対して、今期は4.1弱であった。大きな変化は認められず、概ね良好と言ってよいただろう。評点3に満たないものは、引き続き1点しかなく、教職科目全体としての問題は見られない。

[学生]

「授業には欠席せず、教科書(指定テキスト)はほぼ全員が持参し、私語で困らせることもなく、熱心に取り組む。」これが、教職履修生の姿である。更にそこから一步踏み出し、探究し、反芻して知識定着を図るような姿へと変容させたい。

[授業(内容)]

シラバスを確認して臨んだもの4.1に対し、シラバスに沿って授業展開が4.0なので、企図された授業内容が実施されたものと判断できる。ただ、その内容の適切性・妥当性はこの調査からは判断できないが、法令にも沿い問題は生じていない。

[授業(教え方等)]

項目5～10の平均は4.13で、特に「説明が明快で、よく聞き取れ」て、「資料・教材が適切」と評価されており、授業の基本部分には問題はない。より参加型授業を設計するなどに努めているが、現状でも満足できる状態である。

[環境・設備等]

教職科目では、少人数授業が多く、学習環境に大きな問題はない。図書館の充実には努める必要があるが、具体的に探索した文献が収蔵されていないということではなく、「なさそうだ」との回答が含まれているようである。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.9	0	0	0	1	22	19	シラバスを改善し、「授業前準備」の記載もしたが、活用に大きな変化はなかった。更に工夫を要する。
2	4.1	0	0	0	0	16	26	「公民科教育法」「教職課程特講」「総合演習」など、実践的、演習的な授業に高点が示された。
3	4.5	0	0	0	0	0	42	すべてが4以上であり、「授業に出席すること」は当然のこととして、定着してはいる。
4	3.7	0	0	1	11	24	6	唯一3以下が見られた項目である。「自主的に学びましょう」との促しを超える働きかけの工夫が急務である。
5	4.0	0	0	0	5	12	25	シラバスは充実を図っており、学生へのジャイロスコープともなっている。ただ、教員間の開きは解消したい。
6	4.1	0	0	0	6	11	25	授業理解は、授業の必要条件であるので、さらに充実を図りたい。
7	4.2	0	0	0	7	5	30	次の項目とも関連して、いかにデジタル的メディアが多用されても、「話すこと」の質的向上は図りたい。
8	4.3	0	0	0	0	11	31	学生の言語能力としての「聞く力」は、この結果から見る限り満足してよいと思われる。
9	4.0	0	0	0	1	16	24	人間機能も含め、多様なメディアを適切に用いる研究は続けたい。一つに偏ってはいけなない。
10	4.2	0	0	0	2	10	30	概ね問題はない。ただし、折角配布した資料が、授業終了とともに廃棄されることのない工夫は必要。
11	4.2	0	0	0	6	4	32	全体として、大きな不満はないと思われるが、机や椅子の不具合など、些細なことへの気配りは欠かせない。
12	3.8	0	0	0	9	21	12	資料として、「学習指導要領」改訂に伴い、全検定教科書を配備することで進めている。

3. 今後の方針

① 「授業改善アンケート」を、非常勤教員にも協力頂いて実施し、集計・考察・分析をしながら、「このアンケートのお蔭で、このような成果が見られた」という声を聴く機会がほとんどないのは残念。未だに、「学生の評価は意味がない」とか、「自分が嫌われている」などと反発する人たちもいなくはないが、多くは肯定して、実施してはいる。が、そのことがルーティンワーク化して、年中行事のようになっては、煩瑣な作業の徒労だけになってしまうので、折角のデータをもっと生かせる道を探りたい。学生にも教員にも、「授業改善アンケート」実施の意義と効能を、もっとアピールする必要がある。

② 教職課程における免許状科目を中心とする「教職科目」は、教員というキャリアへの道を拓かせる、伝統的なキャリア形成科目である。それは、単に教員採用試験に合格するという、目先の結果を求めるのではなく、豊かな教養力、人間としての包容力などを伴った、教員としての高い資質を育むことである。この「アンケート」の結果からも、学生のニーズが短絡的なものに留まっていなかったことが読み取れるので、授業の内容、技法・方法の研究を深めたい。

1.概評

学生のみからみて講義形態・内容に劇的な環境の変化がなかったからであろう、数値に大きな変動はみられない。

[学生]

問 1 から問 4 を平均すると昨年度後期とおなじ数値。総じて学生の側に変化は見られない。

[授業[内容]]

問 5 のみ前期比+0.1 ポイント。

[授業[教え方等]]

問 7, 8, 9 は-0.1 ポイント。誤差の範囲内とおもわれる。

[環境・設備等]

前期とおなじ数値。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.6	0	0	21	78	82	46	変化なし。あいかわらず事前に確認する学生が少ない。
2	3.9	0	0	0	15	104	108	前期比-0.1 ポイント。誤差の範囲。
3	4.3	0	0	0	4	34	189	前期比+0.1 ポイント。出席率はよい。
4	3.6	0	0	5	68	125	29	自主的な学習こそ外国語の要諦であることを PR する。
5	3.8	0	0	0	17	131	79	前期比+0.1 ポイント。外国語科目には無用の設問。
6	3.7	0	1	7	44	103	72	前期比-0.1 ポイント。誤差の範囲。
7	3.9	1	1	4	30	64	127	前期比-0.1 ポイント。誤差の範囲。
8	4.0	0	1	4	19	66	137	前期比-0.1 ポイント。誤差の範囲。
9	3.8	0	2	5	40	93	87	前期比-0.1 ポイント。誤差の範囲。
10	3.9	0	1	3	30	92	101	変化なし。妥当な線。
11	4.1	0	0	0	7	57	163	変化なし。少人数化をすすめる。
12	3.5	0	0	2	107	99	19	変化なし。図書館利用をうながす。

3. 今後の方針

- ◇ 新入生の入学まえ履修登録を実現して、煩雑な事務から非常勤講師を解放し、講義に専念してもらおう。
- ◇ 必修単位減による中上級履修者の減少を、一部外国語科目の 2 単位化・教養科目化によりくいとめる。
- ◇ 1 クラスの登録者数が 30 をこえないようにする。